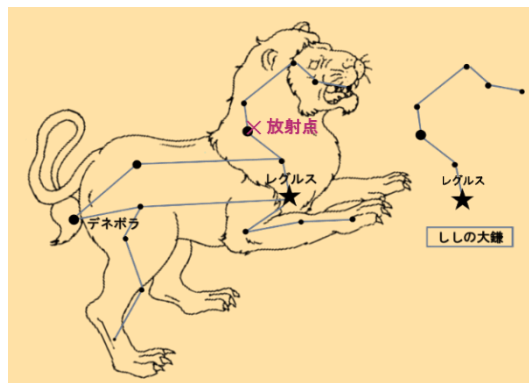




「しし座」のはなし

しし座は、日本では春の宵に南の空で輝きます。
黄道十二星座の1つなので、有名ですね。

しし座の目印は、「？」マークを裏返したような形の星の並びです。これは「ししの大鎌」といい、ししの頭から胸の部分にあたります。西洋の草刈り鎌に似ていることから名付けられました。



大鎌の先の、ししの胸元で輝く α 星「レグルス」は全天 21個あるうち最も暗い1等星です。「小さな王」という意味があり、この名を付けたのは地動説を唱えたコペルニクスだといわれています。ラテン語では別名コル・レオニス「ししの心臓」とも呼ばれます。レグルスは時々月に隠される現象「レグルス食」が起こります。その理由は、太陽の通り道である「黄道」に近いところに位置し、黄道から約5度傾いたところに月の通り道である「白道」があるからです。ただし、黄道と白道の交わる点は少しずつズレていくため、月がレグルスの傍を通る度にレグルス食が起こるわけではありません。

また、ししの大鎌には流星群の中心となる放射点があり、毎年11月中旬頃になると、そこから四方八方へとたくさんの流星が飛び出すように見えます。放射点がしし座にあるため、「しし座流星群」と呼ばれています。では、黄道十二星座すべてにこうした放射点はあるのでしょうか？流星の元となる彗星の軌道と、地球の軌道が交わる場所に放射点があります。それをもつしし座は、まさに幸運な星座といえますね。

尾の先にはその名の通り、ししの尾という意味のある「デネボラ」が輝いています。2等星の明るさですが、うしかい座の1等星アルクトゥルス、おとめ座の1等星スピカとともに「春の大三角」の1つを担っています。

南の夜空では百獣の王のごとく堂々と輝いているしし座ですが、ヘルクレス座が東から昇ってくると逃げるように西の地平線へと沈んで見えるのも面白いところです。

2025年4月15日記 (解説員：朝比奈 麗加)